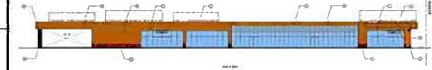




1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ジョイフルエーカー屯田店園芸館		階数	地上1階
建設地	札幌市北区屯田9条5丁目1-1の内		構造	S造
用途地域	第一種住居地域、第一種低層住居専用地域	平均居住人員	20 人	
気候区分	2地域	年間使用時間	4,380 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	基本設計段階評価	
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年9月1日	
敷地面積	9,898 m ²	作成者		
建築面積	3,126 m ²	確認日		
延床面積	2,990 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
BEE = 1.0 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 	標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 64% ③上記+②以外の 64% ④上記+ 64% このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.9		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4 	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.1
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 物販店舗として来客の快適性と客動線の単純化。植物売場への自然光の取入れ。		A 省エネルギー 外皮については省エネ基準に基づく断熱仕様とし、LED照明・EHP空調設備を採用する。
B 省資源等 節水型の機器を採用している。	C 緑化 東・北面道路に面して札幌市の植栽基準に基き低木を植栽する。	D 雪処理 園芸関係が主となる店舗為の夏場に比べ、冬期間の来客は夏場の2割となる他、外売場もなくなる為、半分以上の駐車場と外売場のスペースが堆積場として利用できる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2

ジョイフルエーケー屯田店園芸館

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階				重点評価項目		■A:省エネルギー		■B:省資源		■C:緑化		■D:雪処理		
配慮項目	重点評価項目	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
		A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数						
Q 建築物の環境品質																
Q1 室内環境																
1 音環境																
1.1 騒音																
1.2 遮音																
1.3 吸音																
2 温熱環境																
2.1 室温制御																
2.2 湿度制御																
2.3 空調方式																
3 光・視環境																
3.1 昼光利用																
3.2 グレア対策																
3.3 照度																
3.4 照明制御																
4 空気質環境																
4.1 発生源対策																
4.2 換気																
4.3 運用管理																
Q2 サービス性能																
1 機能性																
1.1 機能性・使いやすさ																
1.2 心理性・快適性																
1.3 維持管理																
2 耐用性・信頼性																
2.1 耐震・免震																
2.2 部品・部材の耐用年数																
2.4 信頼性																
3 対応性・更新性																
3.1 空間のゆとり																
3.2 荷重のゆとり																
3.3 設備の更新性																

CASBEE Sapporo2014v1.2
ジョイフルエーカー屯田店園芸館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	基本設計段階				重点評価項目		■A: 省エネルギー	■B: 省資源	■C: 緑化	■D: 雪処理	
配慮項目	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出			C			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			C			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮						2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				D		2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上		B	C			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制	A					3.0	0.20	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用	A					3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化					BEI 非住宅 0.62 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)	A					4.0	1.00	-	-		
集合住宅の評価(3c)	A					-	-	-	-		
4 効率的運用						2.0	0.20	-	-	2.0	
集合住宅以外の評価						2.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング	A					3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制	A					1.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価						-	-	-	-		
4.1 モニタリング	A					3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制	A					5.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水					節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減						3.1	0.60	-	-	3.1	
2.1 材料使用量の削減		B				2.0	0.11	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用		B				3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		B			-	3.0	0.22	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		B			USB合板:倉庫腰壁	3.0	0.22	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		B				-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		B			天井を作らない事による設備機器の撤去のし易さ	4.0	0.22	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避						2.3	0.20	-	-	2.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					フォースター仕上げ材の採用	3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避						2.0	0.70	-	-		
1 消火剤		B				-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)		B				2.0	0.50	-	-		
3 冷媒		B				2.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮		B			省エネ機器の採用	4.4	0.33	-	-	4.4	
2 地域環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2	
2.1 大気汚染防止		B			オール電化による燃焼機器の不採用	5.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善		B	C	D		2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制						4.0	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減		B			浸透管、浸透樹の敷地内設置	4.0	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制					設置基準を大幅に上回る駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制		B		D	ごみ置き場専用の物置を分別して設置	4.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮						2.5	0.33	-	-	2.5	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-		
1 騒音						3.0	0.33	-	-		
2 振動						3.0	0.33	-	-		
3 悪臭						3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						1.6	0.40	-	-		
1 風害の抑制						1.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制						1.9	-	-	-		
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制						3.7	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					光害ガイドラインを配慮	4.0	0.70	-	-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-		

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌

重点項目
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要					
建物名称	ジョイフルエーカー屯田店園芸館	BEE	1.0	BEEランク	B ⁺
建物用途	物販店	総合評価 ★★★★★			
延床面積	2,990.05 m ²				

2 重点項目への取り組み			レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0 雪処理 省資源等への取組 緑化への取組 この建物は特に 省エネルギー性能 が優れています
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★★★	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア						
A 省エネルギー				合計	16点	／24点
Q1 温熱環境	スコア	0.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.0	
Q1 光・視環境	スコア	3.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0	
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.0	
			LR1 効率的運用	スコア	2.0	
B 省資源等				合計	16点	／23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.0	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0	
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	
			LR3 地域環境への配慮	スコア	3.0	
C 緑化				合計	7点	／16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0				
D 雪処理				合計	2点	／3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	

4 設計上の配慮事項		
A 省エネルギー		
外皮については省エネ基準に基づく断熱仕様とし、LED照明・EHP空調設備を採用する。		
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理
節水型の機器を採用している。	東・北面道路に面して札幌市の植栽基準に基づき低木を植栽する。	園芸関係が主となる店舗為の夏場に比べ、冬期間の来客は夏場の2割となる他、外売場もなくなる為、半分以上の駐車場と外売場のスペースが堆積場として利用できる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される